［1］２０２２年度　事業報告

１．全 般 的 概 況

令和５年４月２５日に発表された内閣府の月例経済報告の基調判断では、－景気は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。－と、多少ではありますが、明るい兆しが報告されています。

先行きについては、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待されながらも、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっており、また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある、としています。

そのような中において、私たち日本ボウリング場協会は、新型コロナウイルス感染症対策ガイドラインを遵守しながら、「ボウリング場は安全な施設」であり、「国民の健康維持、社会生活の維持に必要不可欠なスポーツ」であることを訴求し続けました。

コロナ禍でほぼゼロであった団体予約も、少しずつではありますが戻り始めました。

２０２３年３月１３日のガイドライン改定では、マスク着用の関する項目が削除され、また、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけ見直しに伴い、この５月８日を以ってガイドラインは廃止となりました。

今後は、内閣官房の提言に基づき、各事業所が自主的に感染症対策に取り組むこととなります。ご協力をよろしくお願い申し上げます。

昨年６月４日の定時総会において、武田 竜新会長が就任いたしました。

武田会長は、所信表明の中で、今後力を入れて実施していきたい事業として、「メディアへの露出。SNS を活用したマーケティング戦略」と「中学校の部活動の外部委託を活かしたジュニア育成」を挙げ、最後に、「我々公益社団法人日本ボウリング場協会は経営者団体です。我々ボウリング場が元気にならなければ、他の団体も元気になりません。それには会員皆様方のご協力が不可欠でございます」と呼び掛けています。

会員皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

このような状況のなか、弊協会は昨年度定時総会時に報告の２０２２年度事業計画に示した、次に記載の公益目的事業を中心に積極的に取り組みましたので報告します。

役員一同でさらに努力をしてまいりますので、引き続き会員皆様のご支援ご協力を切によろしくお願い申しあげます。

２．公 益 目 的 事 業

Ⅰ ボウリングを通して、スポーツへの参加意欲を高める事業（公益目的事業１）

１．日本商工会議所会頭杯争奪「第５４回ＢＰＡＪ全国ボウリング競技大会 Supported by オロナミンＣ」の主催

●主　管　（一社）長野県ボウリング場協会
●期　間　令和４年６月３日（金）～５日（日）
●会　場　ヤングファラオ
　・前夜祭６／３(金)
　「P★LEAGUE Dream Challenge」
　・都道府県対抗４人チーム戦、
　・スペシャルオリンピックスの部
●参加数　・前夜祭　２３２名（第１部・第２部合わせ）
　・都道府県対抗４チーム戦　５８チーム（２３２名）

２．「いい夫婦の日・記念トーナメント部門」

●経済産業省及び公益財団法人日本生産性本部の後援で実施された、「１１．２２いい夫婦の日・第２４回キャンペーン」に参画し、全国の加盟センターで「いい夫婦の日・記念トーナメント部門」を実施した。
・参加センター　１８２
・参加チーム数　２，６３５チーム（５，２７０人）

参加センター配布ポスター

３．「オリンピック・パラリンピック」への
ボウリング種目採用の働きかけ

●今後の見通しについて情報を収集し、「オリンピック・パラリンピック」へのボウリング種目採用の働きかけ方法を検討した。

Ⅱ 日本ボウリング史料館の設置・運営事業（公益目的事業２）

書籍に関しては、事務局が入居している 東京都品川区南品川２－２－１０ 南品川Ｎビル３階の一角にコーナーを設け、引き続き運営を行っている。

その他の展示品はついては、茨城県・STAR LIKE BOWL（埼玉県・アオキグランドボールより令和５年３月２９日に移転）の一部を賃借し、「日本ボウリング史料館」を設置、当協会設立以来収集した約１６０年にわたる歴史を持つわが国のボウリングの歴史、文化、仕組み等ボウリングに関する様々な資料、機器等を常設展示している。一般の閲覧者及びマスメディア関係者の取材に対応し、それが数々のボウリングの露出に繋がっている。

日本ボウリング史料館（STAR LIKE BOWL）

また、ボウリング史料館に足を運ぶことが出来ない人にために、協会のホームページでそれらをコーナー別に観ることが出来る「ボウリング ミュージアム（Ｗｅｂ史料館)」を開設・運営している。

Ⅲ 児童・生徒の健全育成事業（公益目的事業３）

友達とのコミュニケーションを深め､家族との絆を強めるスポーツであるボウリングを通して、児童・生徒にスポーツの楽しさを実感できるようにするとともに、安全な時間と場所を提供することを目的とする活動を行った。

１.「ジュニアボウリング教室」の主催

（1）ＢＰＡＪ・ＪＰＢＡ共催
「２０２２年度 夏休み全国ジュニアボウリング教室」
●主　　催　公益社団法人日本ボウリング場協会、
　　公益社団法人日本プロボウリング協会
●後　　援　スポーツ庁
●期　　間　夏休み期間中
●参加対象　小学２年生以上　中学３年生迄
●内　　容　①ボウリングのルールとマナー
　　②ボウリングの基礎技術
　　③スコアチャレンジの実施
●指導担当　ＪＰＢＡプロボウラー、
　　公認インストラクター､認定インストラクター
●全国の４６センターで開催された。

参加センター配布ポスター

（2）ＢＰＡＪ・ＪＰＢＡ共催「２０２２年度 冬休み全国ジュニアボウリング教室」
●主　　催　公益社団法人日本ボウリング場協会、公益社団法人日本プロボウリング協会
●主　　管　公益社団法人日本プロボウリング協会　開催各地区
●期　　間　冬休み期間中
●参加対象　小学２年生以上　中学３年生迄
●内　　容　①ボウリングのルールとマナー　　②ボウリングの基礎技術
　　③記録会等の開催
●指導担当　ＪＰＢＡプロボウラー、公認インストラクター、認定インストラクター
●全国の２４センターで開催された。

（3）ＢＰＡＪ・ＪＰＢＡ共催「２０２２年度 春休み全国ジュニアボウリング教室」
●主　　催　公益社団法人日本ボウリング場協会、公益社団法人日本プロボウリング協会
●期　　間　春休み期間中（２０２３年３月１８日(土)～４月９日(日))
●参加対象　小学２年生以上　中学３年生迄
●内　　容　①ボウリングのルールとマナー　　②ボウリングの基礎技術
　　③記録会等の開催
●指導担当　ＪＰＢＡプロボウラー、公認インストラクター、認定インストラクター
●全国の１６センターで開催された。

２．ジュニア開放レーンの推進

比較的お客様の少ない夕方などの時間帯をジュニア等に開放、及び幼稚園児の体験ボウリングを実施し、子ども達にスポーツの楽しさと安全な時間と場所を提供した。

３．「ミニ・ボウリング機」の普及

当協会が所有するミニ・ボウリングの機器を、当協会加盟のボウリングセンターのみならず、地域が行うチャリティ等の公益目的活動について無償で貸し出しているが、２０２２年度はその実施はされなかった。

４．「こども１１０番のボウリング場」の推進

各都道府県単位で地元行政や警察と連携して、「こども１１０番のボウリング場」を推進している。

Ⅳ．福祉活動事業（公益目的事業４）

１．「第５４回宮様チャリティーボウリング大会」の主催

●主　　管　関東ボウリング場協会
●協　　力　社会福祉法人友愛十字会、
公益社団法人日本プロボウリング協会、
公益財団法人全日本ボウリング協会
日本ボウラーズ連盟、
全国実業団ボウリング連盟
●期　　間　令和４年１１月２６日(土)～２７日(日)
●会　　場　品川プリンスホテルボウリングセンター
●参 加 数　男子　１６１名、女子　８５名、
障害者男子　４８名、障害者女子　１１名　＜合計３０５名＞
●成　　績　一般男子　優勝　袖之　　昭（神奈川・タチバナボウル）
一般女子　優勝　近藤　菜帆（愛知・ＪＢＣ推薦）
障害者男子優勝　中納　悠稀（ＮＰＯ法人スペシャルオリンピックス日本・東京）
障害者女子優勝　鈴木　菜穂（埼玉・ウニクスボウル南古谷店）

２．「ＡＥＤ（自動体外式除細動器）」設置の推進

ＢＰＡＪ　ＮＥＷＳへの綜合警備保障㈱ＡＬＳＯＫ「ＡＥＤレンタルサービス」の案内記事掲載や、「全国ＪＰＢＡジュニアボウリング教室」開催時におけるＡＥＤ設置状況調査など、加盟センターへのＡＥＤ設置を推進した。

３．幼児、高齢者、障害者への「簡易ボウリングキット」寄贈・貸し出し

幼児、高齢者、障害者等の誰でもが簡単にボウリングを通じてスポーツに親しむことができるよう、軽量なピンとボールの「簡易キット」を購入し、無償で提供・貸与する事業を推進している。

４．「メタボリックシンドローム対策」推進事業

・メタボリックシンドロームが様々な生活習慣病の要因となっている。この改善には適度な

運動が重要であり、ボウリングを通じてメタボリックシンドロームの改善を図るよう啓発活動を行った。

・また、骨、関節、筋肉などの運動器の働きが衰え、運動器の障害のために要介護になることや、または要介護になる危険の高い「ロコモティブシンドローム」を予防するために、ボウリングを通じて、ロコモティブシンドロームの予防を図るよう啓発活動を行った。

・全国の加盟センターで開催をする「健康ボウリング教室」を主催し、国民の健康増進に寄与した。

Ⅴ．高齢者福祉活動事業（公益目的事業５）

高齢化社会が急速に進展する現在、高齢者の健康増進、身体機能の強化は社会の極めて重要な課題であり、高齢者の運動能力を向上させるために、スポーツへの参加意識を高めることを目的とした活動を行った。

１．長寿ボウラー番付の発表

平成８年度より実施している「長寿ボウラー番付」は、日場協の高齢者福祉活動事業の一環として実施されており、その回数も令和４年度で２７回目を数えた。

ＢＰＡＪ ＮＥＷＳ を通じ全加盟センターよりの報告（男性：８０歳以上・３，９４５名、女性：７５歳以上・５，１１９名の 計９，０６４名、夫婦：合計１５０歳以上、７１７組・１，４３４名）と、更にポスター掲載のキャッチフレーズを募集し、それぞれ多数の応募をいただき発表した。

また、警察庁・都道府県警察の「振り込め詐欺撲滅対策」への協力として、引き続き「ポスター」に「標語」の掲載をした。

男性編

女性編

夫婦編

（１）ポスターを制作し、全加盟センターへ男性編・女性編各２枚及び夫婦編２枚を配布した。

（２）全国約５１０社のマス・コミにリリース資料を配布し、長寿ボウラー番付の広報に努めた。
媒体で取り上げられた情報は、各センターより日場協に情報提供された。
「長寿社会化現象」にマッチしたものとして、マスメディアのみならず、あらゆる業界から注目を集めている。

（３）番付に掲載された全〝長寿ボウラー〟に「番付ポスター」と「認定証」を、また横綱ボウラーには記念品「アーモンド効果」（協賛：江崎グリコ(株)）を、所属の加盟センターを通じ贈呈した。

（４）希望者に「公式ユニフォーム」と「公式ワッペン」を有償頒布した。

（５）満８０歳以上の長寿ボウラーを対象とした、第７回目となる「全国長寿ボウラーボウリング大会オーバー８０´ｓ・９０´ｓ」は、前年度に続き新型コロナウイルス感染症拡大の影響により開催を中止した。

２．ボウリングを通じての高齢者の運動能力向上に関する普及啓発

ボウリングは、高齢者の運動能力を高めることが医学的に証明されており、高齢化社会が急速に進展する現在、スポーツを通じての健康づくりを進めるとともに、予防医学の見地からも高齢者の運動能力向上に高い効果が認められ、国民の最も身近なスポーツであるボウリングを、高齢者に普及させる活動を行った。

Ⅵ．ボウリング関係団体の公益目的活動への参加と支援事業（公益目的事業６）

ボウリングに関係する団体は、それぞれが公益を目的とした活動を実施しており、当協会はそれら関係団体が実施する公益目的事業のうち、当協会活動の趣旨に適合する事業であり、下記関係団体が実施する事業に積極的に参加し支援した。

・日本ボウリング機構（ＪＢＯ）
・公益社団法人日本プロボウリング協会（ＪＰＢＡ）
・公益財団法人全日本ボウリング協会（ＪＢＣ）
・日本ボウラーズ連盟（ＮＢＦ）
・全国実業団ボウリング連盟（ＡＢＢＦ）
・ジャパンレディースボウリングクラブ（ＪＬＢＣ）
・公益財団法人スペシャルオリンピックス日本（Ｓ．Ｏ．日本）

３．その他の事業（相互扶助事業）

Ⅶ．その他の事業（相互扶助事業）（その他事業１）

１．全国ネット・テレビ放映の実現

全国ネットのテレビ放送でボウリング競技会等を放映し、広く国民がスポーツを通じてその楽しさを享受し、健康促進及び豊かな人間性の涵養に寄与するようボウリングに関する広報を行った。

２．「ボウリングの日キャンペーン」の実施

（１）江崎グリコ(株)との共同主催により、「家族そろって笑顔がパーフェクト！」をテーマに、「プレゼント・キャンペーン」を全国の加盟センターで実施。

●期間中に家族で来場された小学生以下のお子様に、ぴんくるとセブンティーンアイスのキャラクターのイラストが描かれたかわいい「トートバッグ」をプレゼント（各センター先着８０名様）

（２）「小学生以下のジュニア無料キャンペーン」

６月２２日（水）・ボウリングの日に、小学生以下のジュニアを無料対応するキャンペーンについて、時間帯もゲーム数も企業、センター、場協会の判断で任意にて実施した。

４．管 理 部 門

Ⅷ．管理部門

１．会 員 の 動 向

（１）会員企業数、会員センター数・レーン数及び加盟率

	2021 年度期末（令和4年3月３１日）	2022 年度期末（令和5年3月３１日）
会員企業数	２３３　社	２２７　社

区　　分	2021 年度末　（令和4年3月３１日）		2022 年度末　（令和5年3月３１日）	
	センター数	レーン数	センター数	レーン数
加　　盟	４５４	１４，４７５	４４９	１４，２５４
未　加　盟 （内付帯施設など）	２１９ （１３）	５，０３２ （８０）	２１７ （１５）	５，０２４ （１０８）
合　　計	６７３	１９，５０７	６６６	１９，２７８
加　盟　率	６８．８％	７４．５％	６９．０％	７４．４％

【注】加盟率は、付帯施設（公共施設及び９レーン以下のセンター）を除き算出した。

（２）令和４年３月３１日現在の賛助会員数　…　５社

２．総 会 の 開 催

（１）「第１１回 定時総会」

- ● 日　　時　令和４年６月４日（土）・午後１時～同１時５５分
- ● 場　　所　ホテルメトロポリタン長野・３階「浅間Ａ」
- ● 議　　事　第一号議案　２０２１年度事業報告、収支決算報告及び監査報告について
  報　　告　２０２２年度事業計画書、収支予算書、
  資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類の報告について
  第二号議案　理事の選任について
  ◆ 議案は、全て原案どおり可決承認された。

３．理 事 会 の 開 催

（１）　第７０回 理事会　　令和　４年　４月２１日（木）於　品川プリンスホテル メインタワー
３階「もみじ・すみれ・しょうぶ」

（２）　第７１回　〃　　〃　６月　３日（金）於　ホテルメトロポリタン長野
２階「梓」

（３）　第７２回　〃　　〃　６月　４日（土）於　ホテルメトロポリタン長野
３Ｆ「戸隠」

（４）　第７３回　〃　　〃　６月　５日（日）於　ホテルメトロポリタン長野
２階「梓」

（５）　第７４回　　〃　　〃　　７月　４日（月）　　オンライン会議（ＺＯＯＭ）
（６）　第７５回　　〃　　〃　　９月　６日（火）　　オンライン会議（ＺＯＯＭ）
（７）　第７６回　　〃　　〃　１１月２６日（土）　　品川プリンスホテル メインタワー
３階「ハイビスカス・あじさい」
（８）　第７７回　　〃　　〃　１２月１４日（水）　　オンライン会議（ＺＯＯＭ）
（９）　第７８回　　〃　　令和　５年　１月１７日（火）於　東京ドームホテル　５階「吉祥」
(10)　臨　時　　〃　　〃　　２月１４日（火）於　日場協内・会議室（ハイブリッド式）
(11)　臨　時　　〃　　〃　　２月２７日（月）於　日場協内・会議室（ハイブリッド式）
(12)　第７９回　　〃　　〃　　３月　８日（水）於　日場協内・会議室（ハイブリッド式）

４．総務委員会の開催

（１）　令和　４年　　７月２６日（火）　　オンライン会議（ＺＯＯＭ）
（２）　　〃　　８月３０日（火）　　オンライン会議（ＺＯＯＭ）
（３）　　〃　　１０月２０日（木）　　オンライン会議（ＺＯＯＭ）

５．事業委員会の開催

（１）　令和　４年　　４月１５日（金）　　オンライン会議（ＺＯＯＭ）
（２）　　〃　　８月２５日（木）　　オンライン会議（ＺＯＯＭ）
（３）　　〃　　１０月　４日（火）　　オンライン会議（ＺＯＯＭ）
（４）　　〃　　１１月１８日（金）　　オンライン会議（ＺＯＯＭ）
（５）　　〃　　１２月１３日（火）　　オンライン会議（ＺＯＯＭ）
（６）　令和　５年　　２月　８日（水）　　オンライン会議（ＺＯＯＭ）

６．拡大三役会議の開催

（１）　令和　５年　　２月　７日（火）　　オンライン会議（ＺＯＯＭ）

７．令和５年・賀詞交歓会の開催

日本ボウリング場事業協同組合との共催で、下記の通り開催した。

- 日　時　令和５年１月１７日（火）・午後５時～７時
- 場　所　東京ドームホテル　Ｂ１Ｆ「天空Ｂ」
- 出席者　１７０名

８．日場協における役員人事

（１）第１１回 定時総会（６月４日）に於いて、次の理事２３名の選任が行われた。

● 理　事　　（´２２．６．４ 現在）

氏　　名	推 薦 地区場協会	都道府県 場協会	企　業　名　（役職名）
黒田　信幸	北海道	北海道	(株)厚別パークボウル（代表取締役）
宮崎　　亙	東　北	山　形	(株)宮崎合名社（代表取締役社長）
池田　恵子	関　東	栃　木	東洋商事(株)（代表取締役）
武田　　竜	関　東	埼　玉	(株)Ｓｔａｒ Ｌｉｋｅ（代表取締役）

丹下　浩延	関　東	東　京	吾妻興業(株)（代表取締役）
東海林 忠勝	関　東	東　京	(株)芝浦エデン（代表取締役社長）
大石　和弘	関　東	神奈川	大安興業(株)(江の島ボウリングセンター･支配人)
尾形　恵吾	関　東	山　梨	(株)Ｎ＆Ｋ（専務取締役）
里見　　隆	東　海	静　岡	金剛商事(株)（参与）
島田　洋司	東　海	愛　知	東海興業㈱（顧問）
谷川　　修	北　陸	富　山	立山科学(株)（立山グランドボウル・支配人）
深井　喜久	関　西	大　阪	パレ・フタバ(株)　（取締役社長）
山口　義仁	関　西	大　阪	西澤(株)（なわてボウル・支配人）
斎藤　雅照	中　国	広　島	(株)広島パークレーン（代表取締役社長）
太田　英夫	四　国	香　川	オータックス(株)（代表取締役）
秀嶋　康成	九　州	福　岡	山一企業(株)（代表取締役社長）
髙橋　米彦	九　州	福　岡	スポーツガーデン(株)（代表取締役社長）
米須　義明	沖　縄	沖　縄	(株)北谷スポーツセンター（代表取締役社長）
岡田　大明	会員代表者以外		公益社団法人日本ボウリング場協会（専務理事・事務局長）
野川　春夫	会員代表者以外		順天堂大学大学院（特任教授）・武庫川女子大学（学術顧問）
小原　栄二	会員代表者以外		東京中日スポーツ（報道部 部次長）

（２）名誉会長、顧問の委嘱

名誉会長及び顧問について、第７２回 理事会で次のように推薦を決定し、武田会長より委嘱した。

● 名誉会長・三村　明夫 氏（日本商工会議所・会頭）
● 顧　　問・池田　朝彦 氏（元会長：東京レジャー株式会社・代表取締役会長）
　　・中里　則彦 氏（前会長：株式会社パークレーンズ・代表取締役）

９．日本ボウリング機構（略称：ＪＢＯ）の活動

わが国ボウリング業界全８団体が一体となり、「ボウリング参加人口２０００万人達成」「Ｎｏ．１国民スポーツ＝ボウリング」の実現を目指し、平成３０年８月に新団体「日本ボウリング機構（ＪＢＯ)」を設立した。

日本ボウリング場協会は、ボウリングの普及・振興を図るため、このＪＢＯの活動に参画し活動をしている。

令和４年９月には、一般社団法人日本ろう者ボウリング協会（ＪＤＢＡ）が新たに参画した。

（１）　２０２２年度第１回理事会　令和４年　４月１３日（水）　オンライン（ＺＯＯＭ）
（２）　２０２２年度第２回理事会　　〃　　９月　９日（金）　オンライン（ＺＯＯＭ）

１０．各団体との打ち合わせ、他

（１）「グローバルボウリングトーナメント」打ち合わせ会議

ボウリングの発展に向け、ボウリング界が一体となり立ち上げた「グローバルボウリングトーナメント」の開催について、打ち合わせをすすめた。

①令和　４年　４月１２日（火)・午後　４時　～　オンライン会議（ＺＯＯＭ）

②　　〃　　５月２４日（火）・午後　４時　～　オンライン会議（ＺＯＯＭ）
③　　〃　　６月２１日（火）・午後　４時　～　オンライン会議（ＺＯＯＭ）
④　　〃　　８月１８日（木）・午後　３時　～　於　新狭山グランドボウル
⑤令和　５年　２月２１日（火）・午後　４時　～　オンライン会議（ＺＯＯＭ）
⑥　　〃　　３月　７日（火）・午後　４時　～　オンライン会議（ＺＯＯＭ）
⑦　　〃　　３月２８日（火）・午後　４時　～　オンライン会議（ＺＯＯＭ）
※日場協からは、岡田専務理事・事務局長、伊藤職員が出席

●「２０２２　グローバルボウリングトーナメント」
・９月１１日（日）・午前８時５０分～
・於　新狭山グランドボウル（埼玉県）

（２）「ＫＵＷＡＴＡ　ＣＵＰ　２０２２→２０２３」の共催実行委員会への参画

●実行委員会の開催
「ＫＵＷＡＴＡ　ＣＵＰ　２０２２→２０２３～みんなのボウリング大会～」共催団体として、(株)アミューズ、ビクターエンタテインメント、(株)キョードー横浜、(公社)日本ボウリング場協会、(公社)日本プロボウリング協会で構成される「ＫＵＷＡＴＡ　ＣＵＰ」実行委員会に参画し、開催へ向け、一年を通して実行委員会が開催された。

●「ＫＵＷＡＴＡ　ＣＵＰ　２０２２→２０２３～みんなのボウリング大会～」の開催
・「１次予選」（ジュニア部門・一般男子部門・一般女子部門・シニア部門・ダブルス部門）
　・２０２２年９月１７日（土）～１１月３０日（水）
　・会場：全国４７都道府県・日本ボウリング場協会加盟センター
・「２次予選」（ジュニア部門・一般男子部門・一般女子部門・シニア部門・ダブルス部門）
　・２０２２年１２月１日（木）～１２月３１日（土）
　・会場：全国４７都道府県・日本ボウリング場協会加盟センター
・「プロボウラー部門　ＪＰＢＡ大会」
　・２０２３年１月２４日（火）～１月２５日（水）
　・会場：東京ポートボウル・品川プリンスホテルボウリングセンター
・「準決勝」（ジュニア部門・一般男子部門・一般女子部門・シニア部門・ダブルス部門）
　・２０２３年２月２５日（土）
　・会場：東京ポートボウル
　　品川プリンスホテル
　　ボウリングセンター
・「決勝」
　・２０２３年２月２６日（日）
　・会場：東京体育館・特設レーン

１１．ボウリング発祥記念碑の維持管理

日場協が任意団体から通算して創立２５周年を期し、後世へこの史実を伝えていくため、平成２年６月２２日に「ボウリング発祥記念碑」を長崎市内に建立し、長崎県ボウリング場協会へその維持管理をお願いしている。

・建立場所　長崎市所有「長崎市松が枝町駐車場」　・借地面積　６．６平方米
・使用契約　長崎市から１年間の土地使用許可を得、以後自動更新されている。

１２．表彰規程による表彰の実施

（１）第６条・２号①　退任役員への功労賞
・中里　則彦（(株)相模原パークレーンズ・代表取締役　１０期・２０年）
・黒川　賢蔵（東海興業(株)・顧問　１２期・２４年）
・船木　　寛（(株)ファンキー・代表取締役　５期・１０年）
・瀧田　久徳（(株)タチバナボウル・代表取締役　６期・１２年）
・石原　君江（パレ・フタバ(株)・経営企画室室長　２期・４年）
・熊　　和敏（(株)谷口ホールディングス・代表取締役　７期・１４年）
（１）第６条・２号③　功労賞
・新井　裕道（東京ボウリング場協会　事務局勤続１０年）
（１）第６条・５号　永年勤続賞の贈呈
・１０年勤続者　５名　・２０年勤続者　１名
・４０年勤続者　１名　＜合計　７名＞

１３．その他の組織団体への加盟・協調

（１）公益社団法人スポーツ健康産業団体連合会
・多種多様なスポーツ・健康関係団体が加盟しており、協調や情報交換等を行っている。特に、スポーツ界全体の振興策や税制等について、他の会員団体と共同で調査・研究している。
＜加盟団体・企業数＞　１７

（２）東京商工会議所
・ボウリング業界の更なる発展のため、平成８年１１月に入会した。
・ＢＰＡＪ全国大会は、日本商工会議所の「後援」をいただくと共に、第３２回大会（平成９年度）以降「日本商工会議所会頭杯争奪」と銘打ち開催されている。
・日本商工会議所・会頭である 小林　健氏 に、前任の 三村 明夫氏 に引き続いての、弊協会の名誉会長の委嘱を要請中である。

（３）公益財団法人日本スポーツクラブ協会
・多世代、多種目、多志向等の特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営される「総合型地域スポーツクラブ」はじめ、全国の各種スポーツクラブをサポートすることを目的としている。
・ボウリング業界の更なる発展のため、平成３１年１月に入会した。
・弊協会岡田専務理事・事務局長が評議員を務めている。
＜法人賛助会員団体・企業数＞　９